第32回山形県ジュニア選抜空手道選手権大会 審判・監督会議資料

1. 遵守事項

(1) 共通事項

- ①競技規定については実施要項のとおりとする。
- ②本予選会は「山形県空手道連盟 感染拡大防止ガイドライン」に沿って運用し、実施要項「17. 新型コロナウイルス感染症対策について」を承諾したうえで参加することとする。
- ③審判・監督会議は事前に本書面の配布のみにより実施する。当日は審判においては出欠確認のみ、監督は受付時に棄権する選手を報告すること。
- ④開会式、閉会式は密を避けるため実施せず、競技の開始は審判長の開始の発声のみにする。
- ⑤整列する際は1m以上離れて並んでください。
- ⑥ゴミは各自お持ち帰りください。

(2) 審判員

- ①不織布マスク、フェイスシールド、手袋を装着して審判を行うこと。不織布マスク、フェイスシールドは各自準備すること。(主催者では準備しない)
- ②笛は使用せず、電子ホイッスルで代用する。判定時の合図は監査が行う。
- ③形競技において、感染予防のため審判員席は所定の位置より1m離れた場所に設定する。
- ④競技中、指定された席を必要以上に離れないこと。審判シューズでは土足厳禁とする。

(3) 選手

- ①コートへの入退場時、整列時は不織布マスクを着用し、隣の選手及び前の選手との距離は1m以上間隔を空けて整列すること。
- ②形名の呼称や気合い等を発声する際は、大声での過度な発声を禁止する。
- ③組手競技においてマウスシールドが外れた場合は、直ちに主審が「止め」をかけるので付け直すこと。
- ④選手同士及び監督との握手、ハイタッチ、ハグ、出迎え、送り出しは行わないこと。
- ⑤更衣室は女子のみの利用とし、ロッカー、シャワーは利用不可とする。ヘアセットは入場前に行うこと(更衣室内は飲食禁止)。
- ⑥安全具やタオル等の使い回しを禁止する。

(4) 監督

- ①監督はあらかじめ届出があった者(4名以内)とし、役員及び審判と兼ねることはできない(未成年者は認めない)。また、監督の人数が参加選手数を超えてはならない。監督にはIDカードを貸与し管理を行う。IDカードの不正利用があった場合は当該選手だけでなく、当該団体全選手の出場を認めない。
- ②参加選手の都合に配慮し、時間や試合区分等で監督の変更は個別に対応するので入場管理担当(梁瀬伸祐)へ連絡すること(進行予定確定後に受付する)。
- ③監督席では大きな声での過度な発声を禁止する。
- ④監督は空手着を着用しなくてもよいが、監督としてふさわしい服装とすること。また、県連指定の腕章を装着すること。IDカードは見えるところに装着すること。
- ⑤監督は予選会が円滑に進行するよう、当該所属団体の一般入場者に取決め事項やマナー等を遵守するよう呼び掛け、協力いただくよう要請をすること。

(5) 一般入場者

- ①選手1名につき1名とする(予定)。
- ②応援は拍手のみとする(観客席でのみビデオ撮影可、試合会場では撮影不可)。
- ③事前に申請のあった者のみ入場を可能とする。
- ④大会役員(審判員含む)が選手(家族)の送迎を行う場合、該当者の時間外入場を認める。大会に協力することで本人や家族が不利益や不都合のないように配慮する。
- ⑤「山形県空手道連盟 感染拡大防止ガイドライン」及び本大会実施要項を熟読のうえ、円滑に進行するようご協力ください。

2. 競技について(実施要項記載以外)

(1) 形競技

- ①得意形のみ1人制とし、それ以外は2人制で行う。
- ②2人制では時間短縮のため、斜め入りとし、コートのコーナー一部からの入退場時の礼は行わない。
- ③連続して試合を行う場合のインターバルは1分間とし、赤と青が入れ替わる場合は帯を交換してから1分間とする。

(2) 組手競技

- ①10カウントルールは採用しない。
- ②メンホーにマウスシールドを装着することを義務付ける。
- ③連続して試合を行う場合のインターバルは試合時間と同時間とし、赤と青が入れ替わる場合は防具等を交換してから計測する。

(3) 審判員実施事項

- ①競技規定第9条 ウォーニング及びペナルティ(競技を中断することなく使用される合図の導入について)
競技を中断することなく競技の続行と競技を分ける合図を導入する。
 - ・「つづけて」－競技の続行
無断で競技を中断した場合、あるいは双方が技を出さない場合、主審は競技を続行するよう非公式に合図する(競技者をコートに入れる時と同じジェスチャー。ジェスチャーとともに「つづけて」と発声する)。
 - ・「わかれて」－競技者を分ける
組み、又は胸と胸を合わせる競技者に発声(「わかれて」)を伴いながら、手のひらを外側に向けて分ける合図をする。
- ②組手競技において、マウスシールドが外れた場合は直ちに主審が「止め」をかけ、付け直させてから再開すること。
- ③審判員は同じ団体に所属する選手の審判はできない。但し、審判員に不足が生じた場合は、審判長又はコート長(TM)の判断により、審判団に編成することがある。

3. 質疑について

- (1) 大会当日は従来の審判会議、監督会議は実施しないため、上記の内容について質疑が生じた場合は、別紙「質疑申込書」に質疑内容を記載し、担当者へ期日までメールで送付すること。後日、質疑内容とその回答を通達する(ホームページ掲載)。

(2) 質疑申込書の提出について

【提出期限】 令和3年11月5日(金)

【提出先】 梁瀬伸祐 宛 メールアドレス s.yanack@poppy.ocn.ne.jp